

令和 7 年度個別学力試験問題

小 論 文

(教育学部初等中等教育コース)

解答時間 60 分

配 点 100 点

注意事項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 解答は解答用紙の指定された場所に横書きで記入してください。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

多くの人は、学校の勉強はすべてテストのため、テスト問題が解けるようになるため、テストでよい点をとるため、テストに合格するためという考えを頭から消し去ることはできません。いや消し去るところか、それがほとんど唯一の目的になっている場合すら少なくないでしょう。テストが終わったら学習したことをほとんど忘れてしまうというむなしい経験は誰もが持っているはずです。勉強したときは「わかった」「できるようになった」と思っても、そのあとその知識を使う機会もなく時間がたてば、びっくりするほど忘れていくものです。ましてや意味もわからず公式や年号や用語を覚えて点を稼いでも何も残りませんし、カンニングペーパーに頼りでもすれば、当然のことながら、はじめからほとんど何も学習していないのと同じです。テストのための勉強や対策が表面的であることは、おそらく誰でも認識しているでしょう。それでも「テストのために勉強する」という発想がなくなるのは、それによって進級や合格といった人生の重要な通過点や分岐点を左右する手段、あるいは儀式として、テストが社会の中に確固として位置づけられているから、そして(カンニングペーパーは別として)テストのために勉強したことはそれでも何しかの役に立つ価値のある知識であり、その価値を得るための必要悪と考えられているからではないでしょうか。

テストのために勉強することに価値や手ごたえを見出している方、テスト勉強を通じて何か大事なことを学んでいると実感している方もいるでしょう。それがクイズを解くように面白くて、点が上がることがゲームをするようにわくわくする人もいます。しかしここでテストと学習との関係を一旦断ち切ってほしいのです。そのうえで、そもそも学校が本来与えてくれる学習経験があなたに、そしてこの社会に、いったい何をもたらしているのかを考え、そのうえで改めてあなたにとって学習することがどんな意味を持つのかを考えてみてほしいのです。

このことをイメージしてもらうために、テストなどに関係のない「学習」を考えてみましょう。たとえば好きなテレビ番組や映画を観る、興味をそそる本を読む、インターネットでネットサーフィンをして情報検索する、友だちや見知らぬ人の話から新しい知識を得る、アルバイトや会社の仕事を先輩や上司に教わったり、仕事の仕方を見て覚える、自分一人の力で考える……。 (中略) こういった経験からも私たちはたくさんのことを「学習」しています。そしてテストされることもありません(仕事では成果がより厳しく問われるかもしれませんが)。

趣味であれ仕事であれ、こうした学習によって習得した知識は、学校の教科で学んだ知識以上に身につきます。それは自分自身の好みや必要に応じて、強い興味や切実さをもって吸収され、自分の心に刻まれます。いわばあなた自身の心や体をつくるのです。そしてそうして学んだ知識が、次の自分の行動や考え、判断の土台となり、さらにその先の学習を導いてくれます。

(中略)

そのときその科目やその内容のすべてについて、ただちに「できない」、「わからない」と思って理解することをあきらめたり、意味もわからずテストの点を取るためだけの姑息な暗記術や選択肢の正解の選び方のテクニックを学ぶのではなく、その科目や学んでいることがらの中に、何かあなたにとって意味のあるものを見出すことはできないでしょうか。

(出典：安藤寿康、『なぜヒトは学ぶのか 教育を生物学的に考える』，講談社現代新書，2018 年より抜粋・一部改変)

問 1 文章全体を 200 字以内(句読点を含む)で要約しなさい。

問 2 下線部の著者の問いかけに対して、あなたの考えを 400 字以内(句読点を含む)で述べなさい。

